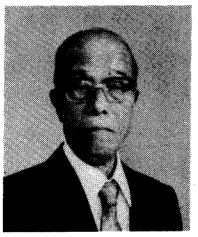
都市計画 Who was Who (18)

前 島 康 彦（まえじま やすひこ）

佐 藤 昌
(財)日本公園緑地協会会長)



前島は，明治43年（1910）9月，東京浅草の生れで，昭和6年国学院大学史学家を卒業すると同時に東京市役所に奉職したが，その後昭和30年東京都を退職するまで公園緑地関係の部課にあって，東京の公園の建設と管理の事務に従事した。都を退職してからは，東京市政調査会及び彼が設立に尽力した東京都公園協会にあって機関誌「都市公園」の編集に従事し，ついで昭和33年招かれて(財)都市計画協会の企画部長となり，「新都市」の編集並びに各種事業の企画に参画した。この間彼は，武蔵野文化協会，日本盆栽協会，桜の会，梅の会，はすの会等の文化及び趣味の会の会長或はその指導的立場にあったが，それは若い時から月給をはたいて買い集めた江戸，明治初期の主として造園，園芸の古書の収集と深い学識によるものであった。彼は名文家として聞え，その文は博引傍証ウイットに富み，一流のエッセイストに比肩した。彼は，太田道灌，太田氏関係文書集（五冊），浅草区史稿（十二冊），墨東外史すみだ，恩賜上野動物園七十年史，東京の公園（八十年史，九十年史）等多数の著書の他，多くの論文，随筆を各種の雑誌に執筆しているが，中でも「都市公園」に，創刊号から連載41回に及んだ「東京公園史話」は，江戸時代から現代に至る公園の源流，その社会的背景，その後の東京の公園緑地の発達を麗筆を以て系統的に書き上げた造園史上貴重な論文であった。また彼は，自ら進んで諸先輩の傳記を執筆したが，公園の先輩折下吉延，井下清，田阪美徳の傳記の他，我国都市計画の先覚者飯沼一省の傳記を完成している。飯沼の傳記には，厖大な資料の整理を行ない精魂を傾けてこれに当ったが，脱稿と共に病床につき，遂にその発行を見ずして世を去った。この遺作は，飯沼一省の生涯は勿論，これを通じて見た我が国の都市計画史というべきものであった。また彼は，昭和58年，東京農大に学位論文を提出したが，それは宗教緑地論といい，社寺境内に関する歴史，並に我国特有な社寺境内地が都市において果した機能を論じたもので，共に都市計画上貴重なる業績である。彼は辨もたち，その司会は名調子で有名であった。好きな酒のため，また性来腎臓一ヶという特異体質のため，晩年人工透析を行なっていたが，昭和63年12月78才を以て世を去った。